

議会だより

なかさつない



中中祭 大縄跳び

9月定例会

決算審査	P 2～7
一般質問	P 8～13
条例改正、補正予算など	P 14～17

議会活動報告

作況調査・議会行政視察調査	P 17～19
---------------------	---------

おしらせ・議員のひとこと など	P 20
-----------------------	------

中札内村議会9月定例会は、9月4日に招集され、会期を12日までの9日間とし行われました。

4日には、意見書1件、報告2件、議案18件を審議し、原案どおり可決しました。

8日には5人の議員が一般質問を行いました。10日には請願2件を採択した後、令和6年度各会計決算認定6件について、11日までの2日間、本会議で審議し、全て認定しました。会期を1日残して11日に閉会しました。

令和6年度決算審査

令和6年度一般会計の歳入決算額は、前年度比3億229万円減の62億2533万円、歳出決算額は前年度比2億8429万円減の58億5215万円となりました。

減額の要因としては、ふるさと納税の寄附額が大幅に減少し、返礼品などの経費が減額となったことが挙げられます。

ふるさと納税クラウドファンディング補助金、堆肥化処理施設製造堆肥臨時助成金、物価高騰対策給付金事業など7事業の翌年度への繰越額は1億1403万円となりました。

一般会計の基金残高は27億3716万円で、前年度より2億2054万円の大幅減額。

まちなかキッチンスタジオ外構工事、地域振興住宅上札内かしわ建設工事、にぎわいづくり起業家等支援事業などにより、多額の基金を取り崩したことが主な要因です。

一般会計の地方債残高は、42億3694万円で、前年度より6565万円の減額となりました。

決算認定審査での質疑の主なものを掲載します。

植栽の立ち枯れの原因は

★福原議員

問 ときわ野5次分譲地の植栽に立ち枯れが生じていたが、土壌分析は行ったのか。立ち枯れの原因は。

答 土壌分析はしておらず、業者にも確認したが原因は特定できていない。植栽直後の干ばつや連日の猛暑日、積雪が少ない、強風など、様々な要因が重なったと考えられる。植栽した3分の2が立ち枯れとなったが、現状は補償により復旧している。

地方バス路線対策補助金の増加

★北嶋議員

問 地方バス路線維持対策補助金が年々増加している。村は高齢者のバス乗車に補助金を出しており、乗車率を高める協力もしているが、算定基準は。

答 国、道の補助金がバス会社に入り、残りの部分を6市町村で負担することになっている。負担割合は走行距離により決まっている。広尾線全体の利用率、乗車率が高まれば補助金のカットも減り、市町村負担も減少する形となる。

行政区活動と交付金の在り方

★船田議員

問 行政区活動が自由にでき、見守りなど相互扶助につながるよう交付金制度を見直す考えは。

答 特別活動交付金の中で学習活動や防災活動、福祉や教育支援活動など幅を持たせて支援している。

使い勝手の部分は行政区長会議でも意見をお聞きしていきたい。

電気自動車の活用とPRを

★福原議員

問 購入した電気自動車の活用状況や走行距離は。

答 付属のスピーカーを活用した春・夏の交通安全運動での啓発活動や公務出張で使用している。燃費は1リットル当たり約40キロメートルで、走行距離は3423km。

今後は村の総合防災訓練やイベント等での活用も考えている。



公用車の電気自動車。ガソリンがあれば発電できるため災害時に発電機として活用できる

緊急通報システム利用状況は

★大和田議員

問 緊急通報システムの利用率は。うまく機能しているのか。

答 令和6年度の設置は53台で、正しく通報された件数が5件、誤報が15件、相談の連絡が89件という利用状況だった。365日24時間、ちょっとしたことで相談に応じることができると利用者の方には説明している。



緊急通報システム（固定型）。持ち運びできるモバイル型も利用できる

南十勝子ども発達支援センター負担金

★宮部議員

問 南十勝子ども発達支援センター（おうく）負担金が、利用者が増加したのに対し負担金が減少している理由は。

答 指導員の複数名が産休を取得し、不在期間があったことなど人件費が減少したことにより負担金が減額となった。

税金はどう使われたのか？ 令和6年度決算質疑



罾にかかったアライグマ

シカによる農業被害への対策を
★北嶋議員

問 シカを駆除してきているが減少していない。シカにより毎年約1700万円の農業被害が出ている。GPSによる捕獲や広域連携など、前向きに取り組んでもらえないか。

答 GPSでやるかどうかは別として、シカ対策について適切な処置ができるよう大学とも協議しながら、こういった手法がよい対策を講じていきたい。

早急なアライグマへの対策を
★北嶋議員

問 アライグマの出没する地域や頭数が増えている。個人では捕獲できないため、何か早急に対策を立てるべきではないか。

答 現在、道の補助金で罾を7基購入している。狩猟免許がないと捕獲できないため、まずは通報していただき、猟友会につなぐ形。狩猟免許の案内や罾の講習会を実施し、農家の方々にも協力をお願いするなどして広げていきたい。

熊対策と猟友会への支援を
★戸水議員

問 猟友会から要望があったトラシシーバー購入についての進捗状況は。

また、人里で熊が出没した際のマニュアルの準備等はできているのか。

答 トラシシーバーについては、補助金活用も視野に入れ、来年度に向けて検討中。今後必要物品については猟友会と協議していきたい。

熊対策のマニュアル等の整備については警察、猟友会、その他関係機関を含めて協議し、体制整備を進めたい。

ごみ収集の体制について
★船田議員

問 収集業者の数回に分けたごみ収集により最近ごみが荒らされる被害も減少している。村の指導と話し合いによるものか。

答 委託事業者の判断によるもの。当日の朝8時までに出すルールにもかかわらず、前日からごみを出される場合もあり、景観上、衛生上の観点から複数回に分けて収集していただいている。



福祉移送サービスの現状は
★大和田議員

問 移送サービス事業委託について、利用者が増えている中、本当に移送サービスを必要としている方が年間120回の使用回数を超えて使用しているのか。現状と今後の改善策は。

答 令和5年度と6年度に100回以上利用している10名の方へ聞き取りを行った。多くの方は、夏場は歩いたり、自転車を利用したり、ご家族の協力をいただくなど120回で足りていると聞いており、120回で足りないという方は一名となっている。

職員が訪問して話を伺い、他の交通サービスを職員も一緒に利用してみるなど、個別で対応していきたい。

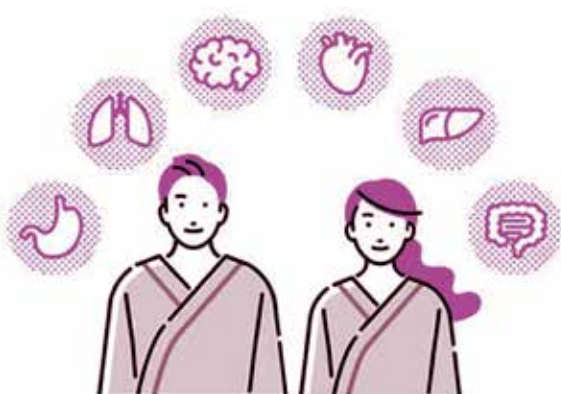


事業委託先の夢というの皆さん。
福祉移送サービスは年々利用者数が増えている

若い世代への健診受診の啓発を
★戸水議員

問 各種健診委託や受診者数が前年に比べ減少している。若い人たちに人間ドックなどを受けてもらいたいが、村として動機づけはどのようにされているのか。

答 がん検診については、受診勧奨のはがきのほか、特定健診時にがん健診の受診勧奨などを行っている。特定健診の未受診者には保健師による電話勧奨や訪問など、個別で声をかけている。今後いろいろな手法を通じて普及啓発していきたい。



特定健診やがん検診など、若い世代に受診啓発を

健康ポイント事業の方向性は

★大和田議員

問 健康ポイント事業における参加者への景品や学校への寄附については今後も継続していく予定なのか。

答 今年度、小中学校への寄附が2巡することから、寄附先や用途については再検討する予定。

景品については無関心層への啓発のために報酬メインで周知してきたが、財政面も考慮し、商品券が目的となるような金銭的価値から健康的価値へ報酬を変えていくよう見直しを考えている。

	参加者の景品 (商品券他)		寄 附	
	金 額	人数	金額と寄附学校	人数
R 4	2,288,500円	579名	764,500円 (中中へ)	293名
R 5	2,517,500円	605名	832,500円 (中小へ)	322名
R 6	2,723,000円	646名	918,500円 (上小・中高養へ)	351名

令和4年度から6年度までの景品と寄附の状況

墓地の利用と墓じまいの状況は

★宮部議員

問 令和6年度の墓じまいの件数とこれまでの墓じまいの件数は。

答 また、合同墓についての取組状況は。6年度が3件、5年度が8件、4年度が11件で、新規利用はなしとなっている。

合同墓については、寺院側との話し合いはまだ持っていないが、今後進めていきたい。

サポートメニューの精査・検討を

★戸水議員

問 元気な農業サポート事業で、防風林植栽やストーンクラッシュー施工実績がないため、一度精査すべきでは。

また、新しいメニューとして作業免許や大特、大型免許取得や、スマート農業に関するものなどを検討する考えは。

答 今年度アンケートを実施して令和8年度に内容の見直しを行い、9年度に反映していく予定。新しいメニューについても農協や関係機関と協議しながら検討していきたい。



鳥インフルエンザ対策に注力を

★戸水議員

問 家畜防疫事業補助金が20万円ほど増加した理由は。

鳥インフルエンザについては、緊張感をもって、防疫対策について事業者とも協議・検討いただきたいが今後の考えは。

答 補助金の増加理由は、牛のワクチン接種代金の価格改定によるもの。

防疫対策については、防疫組合とも情報共有し協議しながら、対策を検討していきたい。

村外牛の受入れの可能性は

★宮部議員

問 大規模草地育成牧場では、村外牛の舎飼いを受けているが、今後も増える予定はあるのか。

答 令和6年度は延べ480頭、7年度は7月まで月平均延べ1200頭と舎飼い、放牧ともに実績は上がってきており、受入れは可能。



村外からの牛の受入れが増えている

バースディセットの継続について

★大和田議員

問 子育て世帯へのバースディセット券の配付について、移住定住対策にも良いことだと思うが、村の財政状況を考えると、来年度必要かについては検証すべきでは。

答 利用率は82%ほどで、周知を行っている。事業が3年目であることから、今後については参加している事業者の意向も踏まえながら検討していきたい。

状況。事業が3年目であることから、今後については参加している事業者の意向も踏まえながら検討していきたい。

令和6年度 中札の村「地元飲食店子育て応援事業」バースディセット お店一覧

下記お店の中からお選びいただき、事前に電話予約にて「投票券を必ず投票の上ご来店ください。」
※料理内容は変更になる場合がございます。電話予約の際にご確認ください。

レストランシェブ シメツメ オムライス/エビフライ/ハンバーグ ボロネー/カラシ/オムライス/デザート 予約：17時までにご予約をお願いいたします 電話：090-555-5555 営業日：水曜日～日曜日	野うさぎキッチン シメツメ ハンバーグ/唐揚げ/ポテトサラダ 予約：17時までにご予約をお願いいたします 電話：090-555-5555 営業日：水曜日～日曜日	鳥ふじ シメツメ からあげ/唐揚げ/ポテトサラダ 予約：17時までにご予約をお願いいたします 電話：090-555-5555 営業日：水曜日～日曜日	ウズマツコックカフェ シメツメ 【ウズマツコックカフェオリジナル】 フライドチキン シメツメ/デザート 予約：17時までにご予約をお願いいたします 電話：090-555-5555 営業日：水曜日～日曜日
ファームレストラン野島さんち シメツメ アンタニー/チキン シメツメ/デザート 予約：17時までにご予約をお願いいたします 電話：090-555-5555 営業日：水曜日～日曜日	鳥せい中札内店 シメツメ からあげ/唐揚げ/ポテトサラダ 予約：17時までにご予約をお願いいたします 電話：090-555-5555 営業日：水曜日～日曜日	鶏屋 Y&M シメツメ からあげ/唐揚げ/ポテトサラダ 予約：17時までにご予約をお願いいたします 電話：090-555-5555 営業日：水曜日～日曜日	かぜのなかにわ はなもえぎ シメツメ からあげ/チキン/唐揚げ/ポテトサラダ 予約：17時までにご予約をお願いいたします 電話：090-555-5555 営業日：水曜日～日曜日

令和6年度バースディセット一覧

日高山脈国立公園園化と札内川園地管理・整備状況について

札内川園地トイレ・炊事場

★宮部議員

問 炊事場のステンレスの流し台が錆びていたが、その後の対応は。

キャンプ場トイレが土足禁止となっているが、利用者からの苦情はないか。

答 流し台は屋外対応のステンレス製のものに交換している。

キャンプ場利用者にはトイレなどの衛生面が大きなポイントとなっており、よりきれいな状況で利用いただくために土足禁止とした。アンケートでは9割以上がきれいで使いやすいとの声をいただいている。



6年度整備されたトイレと炊事場



平成28年にバンガローが大雨で流されたためトレーラーハウスを整備した

施設管理や緊急時の対応は

★船田議員

問 施設における保険の扱いと、保険加入についてはどうなっているか。

熊出没など不測の事態や緊急時の連絡体制など指定管理者との協議の状況は。

答 一般的な修繕については保険等を適用せずに行っており、台風や災害等が原因の場合は保険で対応している。

緊急時は、山岳センターから産業課長等に連絡を入れることになっている。熊などが出た場合は、警察に連絡が入り、消防や村に連絡が入るという流れになっている。

今後の整備の考え方は

★北嶋議員

問 国立公園化となり、約1億円かけてトイレや炊事場の整備もしたところだが、今後については今ある施設を活用しながら、ゆっくりやっていくべきと考えるが。

答 園地については一定の整備は終わったと考えている。山岳センター整備の課題はあるが、財源も踏まえ、全体的に優先順位をつけながら事業を進めていきたい。

園地については一定の整備は終わったと考えている。山岳センター整備の課題はあるが、財源も踏まえ、全体的に優先順位をつけながら事業を進めていきたい。



山岳センターとジオラマコーナー



イベント集客と地域経済に効果がある仕掛けづくりを

★福原議員

問 やまべ放流祭に対する補助金額と来場者数は。

また、イベントに関する宣伝や、札内川園地まで足を運んでもらう仕掛け、道の駅等との連携など、経済波及効果につなげるような取組は行っているのか。

答 6年度は約297万円の補助金で、来場者は約2500人だった。

宣伝については、各施設へのポスターや案内板の掲示等のみで特に変わった仕掛けは行っていないのが現状。観光協会や他の施設等とも協議しながらできることは検討していきたい。



昨年は雨天のため、園地では放流のみでイベントは文化創造センターで実施した

※次ページへ続く

★公園の撤去・集約の状況は

★船田議員

問 めぐみ団地児童公園撤去工事は行政区の了解を得て実施したのか。児童公園を鉄道記念公園に集約する考えはその後どうなっているか。

答 遊具が経年劣化で傷んでおり、住民の利用状況や意向も踏まえ撤去した。

公園の集約については現時点で検討していないが、利用状況を踏まえながら庁内で検討を進めていく。

★移住体験住宅と移住者の状況は

★宮部議員

問 移住体験住宅の利用実績は。また、移住につながった方はどれぐらいいるのか。

答 6年度は3戸で受入れを行い、30件、56人の利用となっている。移住相談や移住フェア、体験住宅などを利用した方で村への移住につながった方は7件となっている。



移住フェアでは多くの方が村のブースを訪れている

★会計年度任用職員の業務内容は

★戸水議員

問 除雪費の会計年度任用職員は、除雪時のクレームの対応などされていると思うが、夏場の仕事は。

答 夏場は河川や道路維持のパトロール、草刈等を実施しており、冬場は村所有の小型ショベルで道路に残った雪や公共施設の駐車場を中心に早朝の除雪を行っている。除雪に関するクレーム件数はかなり減っていると感じている。



除雪では残雪などを小型ショベルで対応

★ストレスチェックの結果は

★戸水議員

問 教育現場でのストレスチェックの結果と問題点は。

答 高ストレス者は5名、病院での受診は本人の判断によることとなり、受診された方はいない。

★プール使用料の見直しは

★大和田議員

問 村民プールは15%が村外の利用者であり、小中学生は無料で一般利用は村内外者ともに100円となっている。

プールの維持費等もかかっており、使用料見直しも必要だと考えるが検討状況は。

答 10月以降の行政改革の一環で、公共施設全体の利用料の見直しに着手していかなければならないと考えている。



利用料が安くて人気のプール

★村内、村外で公共料金の差を

★北嶋議員

問 公共施設料金は、村内、村外で大きな差をつけるべき。全体的な見直しを検討してもらいたい。

答 高齢者の料金設定など、時期は現段階では流動的だが、見直しに取り組んでいきたい。

★ファッイオリピアノの活用状況は

★福原議員

問 ファッイオリピアノの保守点検のほか調律などかかる費用は。ピアノの利用状況と今後の活用方法は。

答 年に1回東京から技術者を呼び、保守点検を行っているほか、通常の調律は基本的に利用者負担で行っていた。日常的にはピアノ庫で湿度管理を行っている。

ホール利用とともにピアノの使用も増えているが、身近に感じてもらえるよう、年2回試弾会を実施し、11月の文化月間では、村民は予約なしで弾ける取組を行っている。

コンサート動画を編集してSNSにアップするなど交流人口増加のために活用している。



試弾会の様子

部活動の地域移行と人材確保は

★船田議員

問 部活動地域移行報償の内訳と、活動に協力していただく人材の確保の考えは。

答 協議会委員への報償や研修会の講師謝礼となっている。

人材確保については、地域人材に活躍していただけるよう資格取得を支援し、教員の兼職発令の対応を行っている。また役場職員もフレックスタイムの使用体制を構築するなど、部活動への指導者の協力は惜しまず進めていきたい。

交流の杜の今後の方向性は

★北嶋議員

問 サッカー場の利用が少なくなっており、村内利用者がほぼゼロ今後の方向性は。

答 交流の杜の設置目的は交流人口を増やそうとする施設であり、運動公園や村民体育館とはすみ分けしている。

今後の方向性は、まちづくり計画の中で、教育委員会と協議し進めていきたい。



交流の杜サッカー場

高騰している賄材料費の対応は

★福原議員

問 賄材料費における高騰分の助成率についての基準は。現在高止まりの状況だが、いつまで続けられるのか、見込みは。

答 基準については特にない。令和4年度に給食費を改定した際、差額分を村が助成した。その後賄材料の高騰が続いており、村が助成してきている状況。



村民税未納者への対応は

★福原議員

問 村民税の収入未済額が、年々微増し、徴収率が徐々に下がってきている。継続して悪化が続くと税の公平性が損なわれてしまう。物価高騰等で生活の苦しい方も一定数いるかと思うが、どのような対策をされているのか。

答 未納者には財産調査をかけ、電話催告や訪問により徴収している。未納の理由がない、財産があるのに未納などの場合には、財産差押を行っている。収入のない方や年金だけでは生活が困難な方については執行停止をかけている。

介護保険特別会計

介護予防教室参加者啓発は

★大和田議員

問 介護予防教室(まる元)の参加者が増えたということは素晴らしいが、参加しづらい層へのアプローチは、どうしていく考えか。

答 まる元は一定の効果がみられるので、利用者をさらに増やしていきたい。

参加しづらい方に対しては、まる元の様子や効果、教室の空き状況など周知して参加者を募りたい。10月以降は体力測定会の開催、診療所や民生委員さんと連携した支援を行いたい。



介護予防の効果が見えてきているまる元体操教室

公共下水道事業会計

下水道管の耐用年数は

★宮部議員

問 処理場の薬品費が下がってきているのは良い傾向だが、濁度が下がってきた要因は。

答 下水道が通水から約30年経過しているが管の耐用年数は。また管の埋設場所などの位置にあるのか。

問 指定管理者の努力で、凝集剤の最適化などによる結果。

答 下水管は車道や歩道に一定の間隔で設置されている。

耐用年数は30年で、平成9年供用開始なので、約30年近く経っている状況。

本会議で決算認定審査の結果、各会計決算は認定されました。

決算質疑の内容が、本年度の事業及び令和8年度予算へ反映され、より良いまちづくりへと発展するよう、議会としても引き続きチェック機能を発揮していきます！

村政のここを教えて!!

紙面の都合により、
内容を要約して
お知らせします。
※詳しい内容
(会議録)はコチラ



一般質問

9月定例会では5名の議員が登壇しました。

各議員が質問を行っている様子→



とみず たかし 議員
戸水 隆 議員

中札内農業に対する村の考え方について

9

YouTube 動画
開始時間

0分23秒～



みやべ しゅういち 議員
宮部 修一 議員

開村80周年記念事業について

10

1時間19分
42秒～



ふなた こういち 議員
船田 幸一 議員

- ①公設の消火栓と防火水槽について
- ②ふるさと納税制度による寄附金について

11

①1時間47分
43秒～

②3時間19分
29秒～



おおわだ しょうこ 議員
大和田 彰子 議員

- ①ゼロカーボン政策の継続と推進について
- ②認知症サポーター養成講座受講者が地域で
生かされる仕組み作りを

12

①3時間37分
56秒～

②4時間16分
29秒～



きむら ゆうこ 議員
木村 優子 議員

こども家庭センターと子ども・子育て支援について

13

4時間37分
33秒～

一般質問 とは？

議員が村政全般にわたり、執行機関（村長・教育長）に対して事務の執行状況及び将来に対する方針等について所信をただし、あるいは報告、説明を求め、疑問点をたずねることです。

年4回開かれる定例会でのみ行われます。



とみず たかし
戸水 隆議員

中札内農業にどう向き合っていくのか？

村長 基幹産業である農業、側面的な支援に取り組む。



中札内村を代表する、さやいんげん、枝豆収穫

問 中札内農業をどのように捉え、今後どう向き合っていきますか。

答 持続可能な農業を推進していくための側面的な支援に取り組み、更には、生産現場に足を運び、生産者との意見交換を行いながら、関係機関と連携、情報共有を図り、農業の振興に取り組めます。

問 農業情勢は著しく変化していくため、村には臨機応変に瞬時な対応を求めたいですが。

答 できる限り現場に向いて現況を把握し、しっかりと議会に提起して、議論しながら取り進め、村の単独事業に活かしていきたいと思っています。

問 土づくり、生産基盤整備の推進について、具体的な内容は。

答 元気な農業サポート事業では、メニューの検証と運用方法の見直しを進め、石礫除去や客土などの小規模土地改良事業への助成を継続します。また、道営土地改良事業の継続実施を早期着手に向けて、道や関係機関に要望していきます。また、土づくりに欠かせない堆肥についても、堆肥化処理施設での製造を継続していきます。

問 堆肥化処理施設の指定管理業者契約更新が次年度に迫っていますが。

答 今年11月12月をめどに、更新に向けて関係団体を含め、議論しているところです。堆肥の価格は、今年度の額より上がらない方向で考えています。



干ばつの影響を受けたビート

問 猛暑による干ばつ対策として、畑かんを利用した灌水装置の導入、礫地域に早急な客土が必要だと考えますが村の見解は。

答 作物の生産安定化と農業所得の向上、本村農業の持続可能性を高める重要な施策です。灌漑施設かんがいの整備では、実情に即した総合的な水利整備計画の策定が不可欠です。



リールマシンによる灌水かんすい

問 本村を土地改良地区モデル自治体として、国や道に認定を求められないでしょうか。

答 難しい部分もありますが、札内川ダムのある本村を全面的に出し、国や然るべき場において、要望をしっかりと挙げていきます。



みやべしゅういち
宮部修一議員

開村80周年「中札内村史」の発刊は

村長

新たな村史の発刊に向けて準備を始めたところ



20周年と50周年に発刊された村史

内村史」として残していく必要性があると考えますが、新しく村長になられた、川尻村長の開村80周年「村史」に対するお考えをお聞きます。

問 編さん委員の選任と事務局体制の配置についてお考えは。

答 村史編さん委員は、公募ではなく各分野に精通している方で、知見を持った方を選任しますが、11月中旬迄には第一回の編さん委員会を開催したいと考えています。

事務局体制は現在80周年記念事業担当者を一人名配置していますが、令和8年度に向け会計年度職員含め、必要な人員の配置を検討しているところです。文章校正や、写真撮影などの業務を一部委託することも検討しているところです。

問 村史の配布については、全戸に配布しますか、それとも希望者だけの配布ですか。

答 正式には編さん委員会の中で議論して決めますが、現時点で村として考えているのは、希望する村民に無料配布する考えで、2冊目以降については販売する考えです。

問 80周年記念事業はどのくらいの予算規模を考えていますか。

答 開村50周年は半世紀という節目でもあり、平成元年度に基金を設けて、8年間で一億円余りの基金を積んでいたこともあり、8300万円というような形で事業が進められました。

80周年事業においては財源が厳しい状況も踏まえて、70周年に行ったベースに「村史」発刊を加えた事業規模で、大きな事業は考えていません。

22年後の100周年に向けては、しっかりとした考えを持っていくべきと、今のところ判断していません。

開村70周年記念事業

○平成29年9月1日実施

予算 211万円

財源 いきいきふるさと推進事業 100万円

◆啓発活動

・開村70周年記念新聞

(タブロイド判8ページ)

・中札内 あいうえおもいで表

◆イベント

・記念式典(文化創造センター)

・記念映像上映会、未来創造会議

(次世代を担う子供たちの発表)

・式辞、表彰

・ザ・キップパーズ コンサート

(村民文化祭にあわせせた文化月間事業)

・東京ふるさと会の親善訪問、

村への記念品贈呈

・札幌ふるさと会 バスで訪問

・友好都市川越市訪問

・景観シンポジウム

・美しい村連合総会への参加

・プールオープニング記念事業

◆実行委員会事業

・平成29年8月19日開催

村民盆踊りのグレードアップ

(実行委員会の主催)



ふなた こういち
船田幸一議員

公設の消火栓と防火水槽の状況と体制は

村長 消防水利を確実に使用できる管理体制と消火態勢の構築に努める

近年、幸いにして市街地や住宅地では大きな火災が発生していませんが、宅地造成地や空き地での住宅が増えつつあります。

火災発生場所と消火栓や防火水槽との距離によっては、消火活動への影響が懸念されていることもあるため、次の点について伺います。

問 本村での消火栓や防火水槽の設置状況及び法令との適合性は。

答 本村には消火栓48基、防火水槽36基の合計84基、防火水槽はすべて40㎡の貯水量を有し、消防水利基準に基づいて設置されており、一部の消火栓は、配管の太さが基準外のものもありますが、緊急時の使用対応には支障がない状況です。

問 耐用年数と更新の有無は。

答 消火栓40年、防火水槽50年を更新の目安とし、とかち広域消防局が作成した「広域化消防施設・設備整備計画」に基づいて定めています。現時点で具体的な更新計画はなく、日常点検や維持管理等を定期的に実施し、長寿命化に努めています。

問 保守点検作業や増設は。

答 日常の外観点検に加え、消火栓の年度当初の通水試験を行っていきます。修繕業務は、5か年計画に基づき専門業者により総合的なメンテナンスを実施し、防火水槽は定期的に貯水量の確認と漏水の有無を点検しています。

今後宅地造成がある場合には、関係法令に基づき、消火栓の増設を検討します。

また、災害時に通水が確保できず消火栓が使用できない場合の緊急対応として、防火水槽や河川などの自然水利を活用し、水利確保に努めます。

今後でも有事の際、消防水利を確実に使用できるよう日常点検に取り組み、万全の消火態勢の構築に努めるとともに住民への火災予防醸成に取り組み、火災に対する意識の向上に努めていきます。



ふるさと納税制度による寄附金について

問 本村では、この2年間、寄附金額が見込みを下回っています。年度ごとの件数、金額の推移について伺います。

答 令和5年度が約4万7千件で約7億6000万円、6年度が約2万件での約5億円になっています。4年度約11万件で約13億円と比較すると件数、金額ともに減少しています。

問 減額の要因は。

答 令和5年10月の総務省指定基準の改正により、経費率の算定が厳格化されたことが挙げられます。それまでは対象外であった経費も幅広く含めるとされ、経費を5割以下に抑えるために、返礼品の寄附金額を引き上げざるを得なくなりました。寄附金額の引き上げにより、本村に比べ寄附単価の低い自治体の返礼品との競合が激しくなり、寄附件数の減少につながっていると考えています。

また、全国的な物価高により、日用品やお米等の生活必需品を選択する寄附者が増え、そうした返礼品を取り扱う自治体に寄附が集中したことも要因と分析しています。

問 日高山脈国立公園を意図した返礼品の企画などの検討は。

答 昨年度、「ばんばとのふれあい」プロジェクトのクラウドファンディングを実施しました。日高山脈の美しい景観を見ながら馬車で周遊する観光コンテンツの造成により、村に滞在する魅力が増し、特別な体験を提供できると考え、事業者が準備を進めています。





おわ だいこう
大和田彰子 議員

ゼロカーボン政策の継続と推進についての考えは

村長 持続可能なまちづくりを一層推進していく

本村は令和6年9月に「ゼロカーボンシティ宣言」をしました。これは持続可能な地域づくりに向けた大きな一歩となりますが、現在での具体的な取り組み状況について伺います。

問 新村長として「ゼロカーボンシティ宣言」に対する評価と今までの取組状況は。

答 引き続き持続可能な地域づくりを一層推進していきます。今までの取組としては、地球温暖化の現状や家庭での省エネの実践を学ぶ生涯学習講座を開催しました。住宅リフォーム支援金による補助制度の活用、太陽光発電設備等の補助や、公共施設照明のLED化を順次進めるなど環境負荷の低減に努めています。

問 住民への周知啓発が少ないと感じます。広報紙を使った周知の必要性和、昨年提案したワークショップの開催について伺います。

答 広報紙を再編している最中で、ゼロカーボンに関する周知も増やしていく予定です。「ワークショップ」の開催も進めていきます。できるだけ多くの村民が継続して省エネ行動に取り組んでいくことを目指します。

問 ゼロカーボンに資する知識をもった企業や大学等と連携し協力体制で進めていく考えは。

答 村内畜産業者によるバイオガスパラントが稼働し、ふん尿処理が改善されたことで農業推進に大きく寄与しています。

また、帯広畜産大学と農業関係機関によるバイオマスの利活用の情報交換、国が進めている「Jクレジット制度」についても十勝広域森林組合と実効性について検討します。

問 ゼロカーボン関係に特化した担当職員を配置している自治体があるなかで、本村は兼務での職員体制となっています。ゼロカーボンの実効性を高めるための体制整備はどのように考えられますか。

答 全職員が各自の業務で温室効果ガス削減につながる視点を意識し、総務課が総括的に各所管課と連携して組織全体でゼロカーボンを推進していきます。



認知症サポーター養成講座受講者が地域で生かされる仕組みづくりを

問 8月に行われた養成講座は70名以上の参加者でした。受講して終わりではなく、その後に繋がるフォローアップ体制はあるのか伺います。

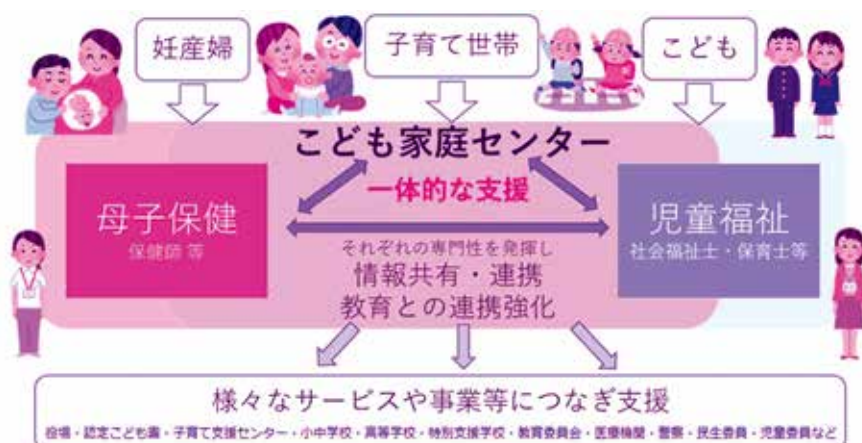
答 サポーターになった方が地域で活躍できるような環境づくりが必要と感じています。26名の「認知症サポーターステップアップ講座」受講希望者があり、「チームオレンジ」の構築に向けた取組みを進めていきます。

問 サポーター達による徘徊者の早期発見に協力できる体制づくりができないか、また本村の「高齢者見守りSOSネットワーク」の内容について伺います。

答 あらかじめ家族が徘徊のおそれのある方を福祉課で登録する必要があります。現在2名います。行方不明になった場合、警察署に連絡した後、村内の関係機関が捜索していくことになっています。

制度について情報不足だったので、住民周知に取り組めます。またサポーターが住民の一員として早期発見につながる情報提供に協力いただければと考えています。





こども家庭センターのイメージ。子ども・子育て支援の向上が期待される



きむらゆうこ
木村優子 議員

誰も取り残さない子ども・子育て支援の仕組みづくりを

村長 「こども家庭センター」を構築し、包括的・連携強化した支援を行う

少子化や核家族化が進む中で、子育て世帯や子どもを取り巻く環境や課題は多様化・深刻化しています。

令和8年度に設置予定である「こども家庭センター」は、こども・子育て支援の中核的な拠点になると考えることから、次の点について伺います。

問 センター設置の目的と期待される効果は。

答 「子育て世代包括支援センター」と「こども家庭総合支援拠点」を一体化することで、母子保健と児童福祉の情報を一元化し、状況を多角的に把握できるようにになります。

これにより、すべての妊産婦や子育て世帯、子どもに切れ目のない支援を提供するための、包括的かつ連携強化された支援が実現し、地域の子育て支援力の向上が期待できます。

問 相談体制や関係機関、地域との連携体制は。

答 保育園や子育て支援センターを窓口として活用し、学校や医療機関等と連携し、必要に応じて民生委員にも参画してもらえりような体制を整えます。「子育て世代包括支援センター」の運用を強化し、チームによる専門的で継続的な支援を提供します。

問 専門的人材の確保はどのように行いますか。

答 全体の調整や業務マネジメントを行う統括員には、地域と制度に精通した経験のある保育士を想定しています。保健師や社会福祉士などの確保・連携も検討し、安定した体制整備を図ります。

問 活用の利便性向上や住民周知の取組については。

答 センターを保健グループに設置することで、福祉課内で各グループに分かれていた担当窓口を一元化し、利用しやすい環境を整備します。

広報紙やSNS等で役割を分かりやすく伝え、利用の促進を図ります。

問 費用や運営面の考え方は。

答 令和8年度予算に人件費等を計上予定で、国の補助金を活用し、安定的かつ長期的な運営を目指します。

問 取組の成果をどう測定・改善していきますか。

答 「中札内村こども計画」に基づき、相談件数や支援事業の実施状況などを評価指標とし、「こども・子育て会議」で検討し、必要に応じて事業の見直しなどの改善を行います。

問 村長公約に掲げている「子育て環境づくり」に向けて、今後の取組は。

答 現行の子育て支援策において継続すべき施策は維持しつつ、必要に応じて事業や予算を見直しながら、子育て支援充実に必要な人材確保や事業については、令和8年度予算に反映させていきます。



窓口は保健グループに一元化される予定

新たな分譲地として泉団地跡地の調査設計へ

会 計	当初予算額	今回補正額	補正後予算額
一 般 会 計	56億8,560万円	4,726万円	60億2,682万円
国 民 健 康 保 険	5 億5,570万円	—	5 億1,699万円
介 護 保 険	3 億7,140万円	1,282万円	3 億8,321万円
後期高齢者医療	8,170万円	—	8,170万円
簡 易 水 道	収入	2 億5,199万円	2 億1,007万円
	支出	2 億4,496万円	1 億7,567万円
公 共 下 水 道	収入	3 億1,655万円	1 億2,571万円
	支出	3 億6,411万円	1 億7,877万円

各会計の予算の状況

補正予算

9月4日には、一般会計、介護保険特別会計、簡易水道事業会計、公共下水道事業会計の4会計の補正予算を審議し、可決しました。
補正内容と質疑の主なものを掲載します。

一般会計 歳出

●調査設計委託

1354万円

泉団地解体撤去後の土地を新たな宅地分譲地造成のため調査設計費用を追加するもの。

★大和田議員

問 日高山脈側の大きな樹木や公園周りの白樺は伐採してしま

うのか、失われる緑や景観への影響をどのように考えているか。

答

住民説明会の中で色々と意見をいただき、調査設計の中で方向性を検討していく。



分譲地候補の泉団地跡地

●低所得者支援等臨時特別給付金

1342万円

定額減税を補足する給付金で令和6年分所得税及び定額減税の確定による不足額を現金給付するため追加するもの。

★船田議員

問 交付対象者は概算で現在どの程度いるのか。国の支援後、村独自の支援の考えは。

答 概算で500名程度。物価高騰対策は国の方針と交付制度に沿って進めており、村独自の支援は今のところ考えていない。今後については国や道の動向と財源を見極めながら進めていく。

●土壌調査手数料

153万円

令和8年度から堆肥化処理施設で下水道汚泥を受け入れることに伴い、新規に肥料登録に必要な成分分析を行うため追加するもの。

★宮部議員

問 水分量を下げるとの具体的な対策は。今の水分量で堆肥に混ぜて使える状態なのか。

答

浄化センターから排出される一日の汚泥量は約4トンから5トンと少量であり、水分量を大きく減らすことなく十分処理できる。

●土壌調査手数料

42万円

令和12年度採択予定の道営畑総事業（左岸第2地区）の客土工事に向けた土取場候補地の土壌調査のため追加するもの。

★戸水議員

問 西札内の分析結果は残念だったが、今回新たに別の箇所を分析するということか。令和12年度から始まる道営畑総事業を賄えるだけの量が確保できるのか。また、左岸第2地区の要望量は。

答 2箇所の土取場候補地として今回予算計上した。新規の札内川左岸第2地区での土取場と予定しており十分な客土が確保できると考えている。

客土の要望量は約128ヘクタールで、客土厚10センチメートルの仮定で約12万8000㎡の客土の確保はできると考えている。



土取場候補地（東戸蔭地区）

文化振興奨励事業補助金の見直し検討へ

●文化振興奨励事業補助金

118万円
今後予定されている文化事業を見込み追加するもの。

★大和田議員

問 文化振興が活発なことは喜ばしいが、財政状況が厳しくなっている中、申請が増えた場合は、配分の基準を設けていくのか、予算追加により全ての団体に助成していくのか。

答 コロナ明けでなるべく住民活動を支援するため補正で対応してきた。ふるさと納税による基金への積立で対応してきており、ホールの予約も好調で予約が取れない現状もあるため、どこかの段階では回数制限など来年度に向けて検討していきたい。

●草地支障木伐採委託

217万円

令和8年度に道営事業で整備する牧草地内の雑木等の処理を行うため追加するもの。

★福原議員

問 支障木伐採の中身と伐採後の活用方法は。

●答

西札内牧区の一山山西側採草地の雑木処理及び元更別牧区のブローラー団地東側採草地の雑木処理を行うもの。令和8年度整備予定の採草地の早期実施のため支障木伐採を行う。

●標準化版総合行政システム保守委託

532万円

●標準化版総合行政システム利用料

602万円

12月から運用開始する標準化システムの保守委託料、利用料を追加するもの。

★木村議員

問 システム利用料は毎年必要となるのか。ランニングコストとして村の実質の負担は今後増えるのか、減るのか。

答 利用料は毎年月額の費用として今後もかかる経費。標準化が今年移行期であり初年度ということで一旦費用が増えている状況。今後も構成の見直し、他の自治体とのライセンス共有など按分効果も働かせながら、減らせるところは減らしていきたい。



◎システムの標準化とは？

法律に基づき、戸籍など基幹業務システムを利用するすべての地方自治体が、本年度中に国が指定する標準準拠システムへ移行すること。

●電気設備改修工事実施設計委託（文化創造センター）

915万円

令和8年度から実施予定のLED化工事に向けて実施設計を行うため追加するもの。

★木村議員

問 事業費と財源の見込みは。

答 現段階の想定で2億円。財源は補助金がないため、他の施設同様にLED化の起債を想定している。



施設全体のLED化を予定している。

報告

●令和6年度中札内村健全化判断比率及び資金不足比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第3条第1項及び第22条第1項の規定により報告するもの。



◎健全化判断比率とは？

財政の健全化に関する比率で数値が大きいほど財政状況が悪いとされている。（4指標）

中札内村では赤字が発生していないことから3指標は数値化されていない。残りの1指標は基準を下回っている。

◎資金不足比率とは？

簡易水道や公共下水道の公営企業の資金不足を指標化したもので、経営状態の悪化の度合いを示すもの。中札内村では経営状態が良かったため、指標化されていない。

諮問

●人権擁護委員

曾根俊明氏
（再任）任期3年

※次ページへ続く

各種委員の選任、財産の購入、工事請負契約を可決

各種委員会の委員

●公平委員会委員

高知 槇 志津子 氏
木本 正 幸 氏
達彦 氏

●教育委員会委員

川田 一 幸 氏
西朋 尋 氏
(再任) 任期4年

専決処分

●令和7年度一般会計補正予算の専決処分承認

ペペギリ川の水質悪化について、水産関係者から改善命令が発出されたことに伴い、水質検査及び川底の汚泥撤去の浚渫作業費用557万円を地方自治法第179条第1項の規定により専決処分したもの。

◎専決処分とは？

議会が議決すべき事件について、特に緊急を要するため、議会を招集する時間的余裕がないこと等が明らかに認められる場合、議会に代わり長が処分することができるとされている。

条例改正

●中札内村議会議員及び中札内村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部改正
物価変動等に対応し、選挙運動用ビラ作成に要する経費の公費負担の限度額を引き上げるため改正するもの。

●職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

●職員の育児休業等に関する条例の一部改正

仕事と育児のさらなる両立を図り、子の年齢に応じた柔軟な働き方を選択できるよう子育て部分休暇の取得形態の見直しなど規定を整備するため改正するもの。

財産の購入

●大規模草地位育成牧場備品購入業務

大規模草地位育成牧場にけん引式ブームスプレーヤー一台を購入するもの。ヤンマーアグリジャパン株式会社帯広支店と1000万円で売買契約を締結することを可決しました。

工事請負契約の締結

●防災行政無線放送卓等更新工事
6808万2300円
防災行政無線放送卓等の更新を行うもの。令和8年3月31日までの工期で、株式会社キロコ電気と工事請負契約することを可決しました。



導入後14年が経過し不具合が出ている操作卓

議案に関する
審議結果や
賛否一覧は
こちらで
ご覧になります



他にも報告、条例改正や規約の変更などが可決されました。

意見書

●国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書

提出者 宮部 修一 氏
賛成者 船田 幸一 氏

★意見書は採択となり、関係大臣並びに関係機関に提出しました

請願

●義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元など教育予算拡充とゆたかな学びを求める請願

●道教委「これからの高校づくりに関する指針」(改定版)を見直しすべての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求める請願

提出者 中札内村地区連合会
紹介議員 木村 優子 氏

★請願は採択となり、同趣旨の意見書を関係大臣並びに関係機関に提出しました

産業文教常任委員会

村内農作物作況調査を行いました

産業文教常任委員会（委員5人）は、9月3日に十勝農業改良普及センターのご協力のもと、今年の農作物の作況を調査しました。

高温と少ない降水量による干ばつの影響が大きい

●小麦

稈長は平年より短く、穂長、穂数は平年並み。干ばつの影響で、収量は平年よりかなり少なく、製品率も低く一等Bランクとなる見込みです。

●豆類

6月から7月の高温猛暑と7月下旬まで降水量が極端に少なかったため、干ばつの影響が大きく、土質保水力の差や礫地帯の差が大きく現れました。

大豆は茎長が短く、着莢数が平年より多く、収量は平年よりやや多い見込みです。

小豆は7月下旬から8月上旬のまとまった降水により茎長がかなり長く、着莢数は平年よりやや多いですが、収量は平年より少ない見込みです。

金時は茎長がかなり短く、着莢数は平年より少ないため、収量は平年より少ない見込みです。

手亡は茎長がかなり短く、着莢数は平年より非常に少ないため、収量は平年より非常に少ない見込みです。



農業改良普及センター職員から作況状況について説明を受けました

●馬鈴しょ

6月、7月の干ばつの影響で、かなり減収となる見込みです。澱粉価は平年より2〜3%少ない見込みです。

●てん菜

生育は平年並みに進んでおり、収量は平年よりやや多い見込みです。糖分は平年並みの見込みです。

●飼料作物

生育前半の干ばつの影響で牧草の収量は平年を大きく下回る見込みです。

乾物重量は平年をやや上回る見込み。デントコーンは、雨不足により稈長は短く、収量減の見込みです。

南十勝町村議会議員研修会

『防災・減災と議会の役割』



8月4日、広尾町コミュニティセンター大ホールにて開催されました。

講師には、あとみ跡見学園女子大学観光コミュニケーション学部教授の鍵谷一かぎや いちお氏が登壇し、災害への日頃からの備えや、個別避難計画による避難支援の重要性、コミュニティや地域社会の連携により災害や危機に強くなるといった防災の考え方や災害時の議会や議員の役割についてのお話を伺いました。

札幌・中札内村ふるさと会

10月4日、なかいやすお中井康雄議長はじめ4名の議員が札幌中札内村ふるさと会に参加しました。
会員の皆様と情報交換をしながら親睦交流を図り、楽しいひとときを過ごしました。



行政視察調査

8月20日～21日

美瑛町

調査目的

「日本で最も美しい村」連合加盟町村として、自然と景観を守りながら地域全体で観光との共生を考えるまちづくりや、令和4年に「ゼロカーボンシティ宣言」を表明した美瑛町の脱炭素社会に向けた取り組みについて学びました。

★「日本で最も美しい村」連合に関する取組

日本で最も美しい村づくり推進協議会

推進協議会は21の構成団体からなり、協議会主催事業（清掃美化活動、景観修景活動、絵画コンクール等）と構成団体実施事業（ふるさと学習や花いっぱい運動等）の2本柱で美しい村としての取組を推進しています。

ビューティフルデーの実施や商工会が主体となりまち中心部の花壇植栽と管理を行い、学校で連合の取組や住民と観光客の共生について考える学習を実施しています。

景観条例と景観づくり

「美瑛町景観条例」、「美瑛の美しい景観を守り育てる条例」を制定。景観計画の策定により、町内全域を対象にした景観形成基準が示されました。

美瑛町らしい街並みの整備として建築協定によるデザインの統一、無電柱化、流雪溝の設置を行い、本通りや旧商業施設を再整備。国道植樹帯を整備し、住民が主体的に管理しています。

課題と対応策

オーバーツーリズムが課題。人口約1万人に対し観光客が年間約260万人と急増し、地域住民の生活交通や飲食店の混雑、交通マナー違反やレンタカーによる交通事故、景観汚染、農地侵入などの問題が生じています。

対応策としては、観光パトロールと看板の整備、外国語表記の導

入、観光マナー啓発チラシ・動画の配信、IT技術を活用した混雑状況の可視化、侵入検知カメラの運用など多面的な対応を行っています。

まとめ

中札内村は、平成28年に美しい村連合に加盟し本年度10年目を迎えます。景観計画の策定や、景観行政団体への移行準備を進め、ワークショップを開催するなど住民参画や理解促進にも取り組んでいます。しかし、「美しい村」という言葉自体は浸透しているものの、「行政が行うもの」という受け止めが多いのではないのでしょうか。美瑛町の事例を参考に、住民が主体的に活動できる協力体制へとつなげていくためには、中札内村でもさらなる工夫が求められると感じます。



本通りの様子。商店の建築デザインの統一や無電柱化が図られ、本通りの除草や花壇は商工会が中心となり管理されている

★ゼロカーボンシティの実現に向けて

産官学金連携事業

令和5年に美瑛町再生可能エネルギー導入目標を策定し、関係機関との連携事業がスタートしました。

ゼロカーボンパーク登録

令和6年に大雪山国立公園をゼロカーボンパークとして登録。自治体限定の補助メニューを活用しています。

EV充電器設置や電動キックボードの採用

EV（電気自動車）の導入や、道の駅2か所に充電器を設置。道の駅区間は電動キックボードを採用しCO2排出の削減や、訪問者の移動利便性向上を図っています。



まちには美瑛軟石が使われた建物が並んでおり、道の駅「丘のくら」もその一つ。

下川町・美瑛町

公共施設等の対策

スポーツセンターの暖房を重油燃料のボイラーからガスヒートポンプへ変換を予定しており、公共施設のLED化も進めています。

重点対策加速化事業

「美瑛ゼロカーボントウン計画」を策定し、2030年までにCO2排出量を87.7%削減、50年までに排出実質ゼロを目指して、小水力発電設備整備など重点対策5事業に取り組んでいます。

まとめ

美瑛町は「豊かな自然と共生し、持続可能な循環型社会を目指すまち」という明確な目標を掲げ、ゼロカーボンシティ宣言や大雪山国立公園のゼロカーボンパーク登録、再エネ導入・CO2削減目標を示した「美瑛ゼロカーボントウン計画」を策定し、具体的な施策を進めています。

また、大学や企業との包括連携協定により、企業版ふるさと納税をはじめ、資金・知識・人脈・人材といった、まちづくりに必要な資源を確保している点が大変優れています。

中札内村は、令和6年9月にゼロカーボンシティ宣言を表明しました。今後は本村のCO2排出量を把握し、明確な目標の設定と具体的な事業の実施計画を村全体で共有することが大切だと考えます。

下川町

調査目的

下川町は2018年より、住民が主体となって下川版SDGsの策定を行い、持続可能な地域社会の構築と地域の活性化に取り組んでいます。住民参画やバックキャストイングによるまちづくりの手法、SDGsを取り入れた脱炭素社会の実現への取組について学びました。

★SDGs未来都市

町の概要と経過

旭川市から北に約100kmに位置し、644.2km²の面積を有し、まちの9割が森林に囲まれています。主幹産業であった林業、鉱業の衰退などにより、人口は最大約15000人から現在の約2900人に減少しました。

2007年の下川町自治基本条例で「持続可能な地域社会の実現」を明記し様々な取組に着手した結果、2008年環境モデル都市、2011年未来都市、2013年バイオマス産業都市に選定されています。

森林循環とバイオマス事業

2014年に、伐採・植林・育成を60年サイクルで繰り返す「循環型森林経営」を開始し、残材を活用した原料製造と木質バイオマス熱供給システムなどの再エネを導入。集落再生モデル「一の橋バイオビレッジ」などを推進しています。バイオマスによる公的施設の熱エネルギー自給率は約70%、年間約3800万円の経費削減効果となっています。これらの取組が人口減少の抑制にもつながり、2017年に第1回ジャパンSDGsアワードで内閣総理大臣賞を受賞しました。

下川版SDGsの策定

2017年までの取組をさらに発展させ、将来の課題解決へと進めるために、SDGs未来都市部会を新設し住民主体により「2030年における下川町のありたい姿（下川版SDGs）」を策定。第6期総合計画の将来像に位置づけ、「循環型経済」「住み続けられるまち」「脱炭素社会」の創出のための事業を推進しています。

また、未来人材育成システム（子どもを育てる）事業により、地域共育に関わる多様な取組を進めています。

まとめ

下川町は、早い段階から「持続可能な地域社会の実現」というSDGsのコンセプトが基盤のまちづくりが行われており、将来のまちの姿が明確で住民にも理解しやすい体制になっていると感じました。協働のまちづくりを進める本村にとっても参考になる部分が多いと考えます。

中札内村が持続可能な村となるよう、SDGsの考え方をまちづくりにどう生かしていくことができるのか、またゼロカーボンシティのまちづくりを進める手法について検討が必要だと考えます。



中学3年生

一般質問を傍聴

中札内村では、小中学校9年間を通して村のこと、まちづくりなどについて学ぶ「ふるさと学習」を行っています。中学3年生は、その集大成として、毎年11月に模擬議会を実施し、自分たちが学んできたことを活かせるよう、役場に対し、一般質問形式で政策提案を行っています。

9月8日に中学3年生が、11月の模擬議会本番に向け、事前学習として一般質問を傍聴しました。

メモを取ったり、うなずいたり、真剣な眼差しで、村長と議員とのやり取りに耳を傾けていました。



模擬議会ではどんな提案がされるのでしょうか？

次の定例会は12月です！

日程が決まりましたら情報無線等でお知らせします。

どなたでも傍聴できますので、気軽に議場へお越しください。議会中継はYouTubeでも配信しており、「中札内村議会」で検索できます。

また、下記のQRコードからもアクセスできます。



議会公式Instagram

ぜひフォローをお願いします!!



議会中継（録画版）もチェック!!

9/4 定例会招集日
条例改正、補正予算など



9/8 一般質問（5名7問）



9/10 令和6年度決算審査
1日目



9/11 令和6年度決算審査
2日目



議員のひとこと

さすがに今年は、暑い夏でした。年々暑さが増してきています。果たして来年以降どうなるのか。せめて、雨は適度に降ってほしい。そう願います。

今年の農家の皆さんは、6月、7月の干ばつに泣かされました。小麦、枝豆、馬鈴薯等、凶作の年です。

降雨を頼りにする十勝農業は、近い将来、灌漑（人工的に農地に水を潤すこと）が必要とされるようになるでしょう。雨が欲しくても、人為的に操作ができないのは天候だけです。

自然界でも干ばつの影響は大きいです。今年の熊出没の報道は異常なほどです。山中でのドングリ等が不作で、餌を求めて、人里に降りてくるでしょう。

これらは地球温暖化による異常気象が原因だと思えます。人類が、温室効果ガスを排出させ、人為的に悪い方向へ向けているのです。

世界中の国や人々が、早急にゼロカーボンに取り組んでほしいですね。私も含めて。

（戸水 隆）

〈広報委員〉

木村 優子

戸水 隆

大和田 彰子

福原 一斉